

# 生命情報系 学生・若手研究者の キャリアパスに関するアンケート 結果報告

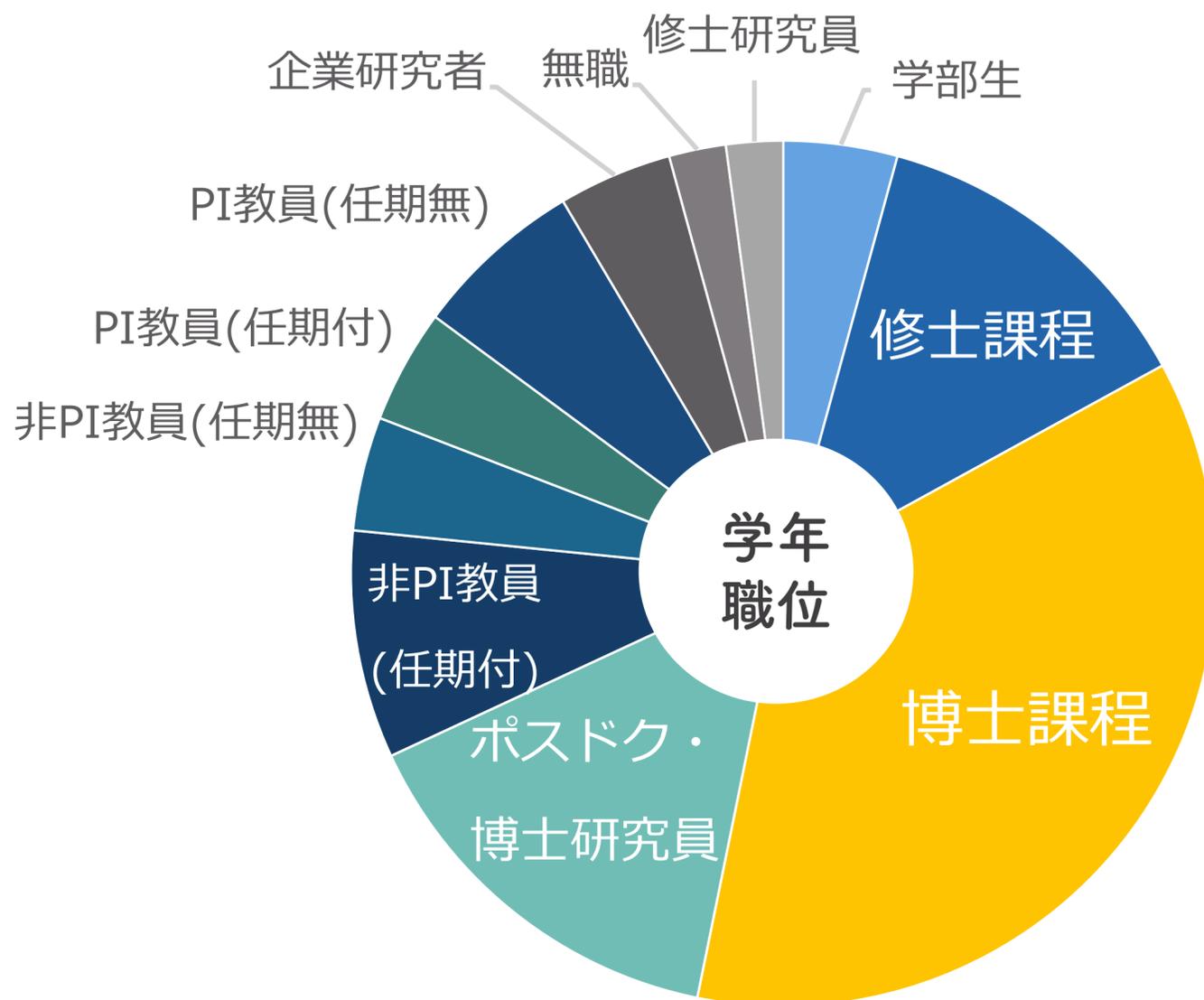
アンケート実施期間：2022年7月28日～8月31日

対象者：日本国内に在住する生命情報系の学生及び  
博士の学位取得後8年未満の研究者

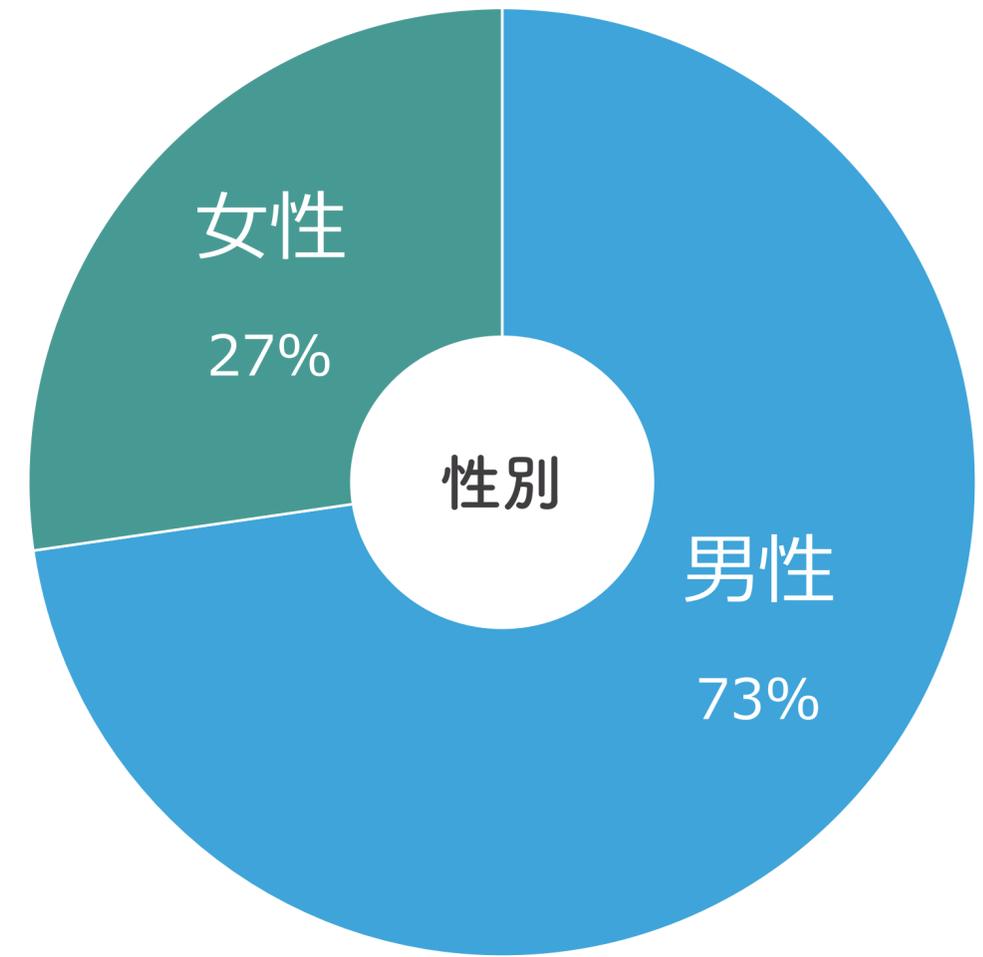
回答数：47

協力：生命情報若手の会

# 回答者の属性



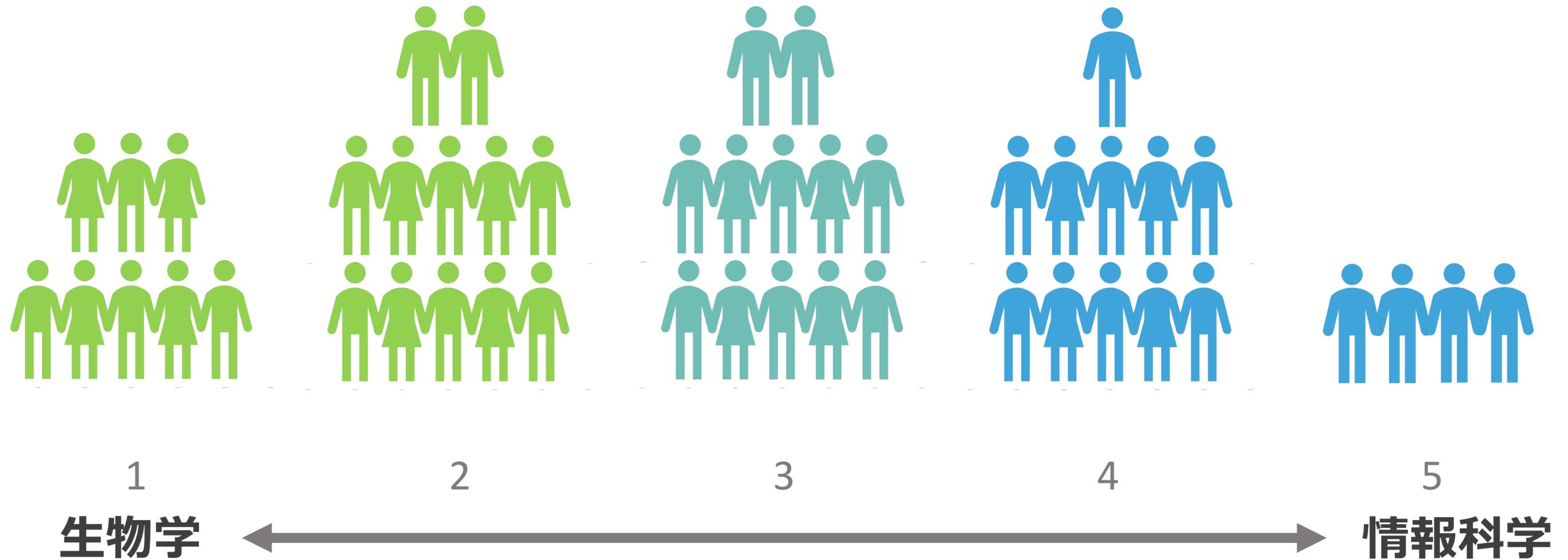
Q: あなたの現在の学年または職位をお選び下さい



Q: 自認されている性別をお選び下さい

# 回答者の専門分野

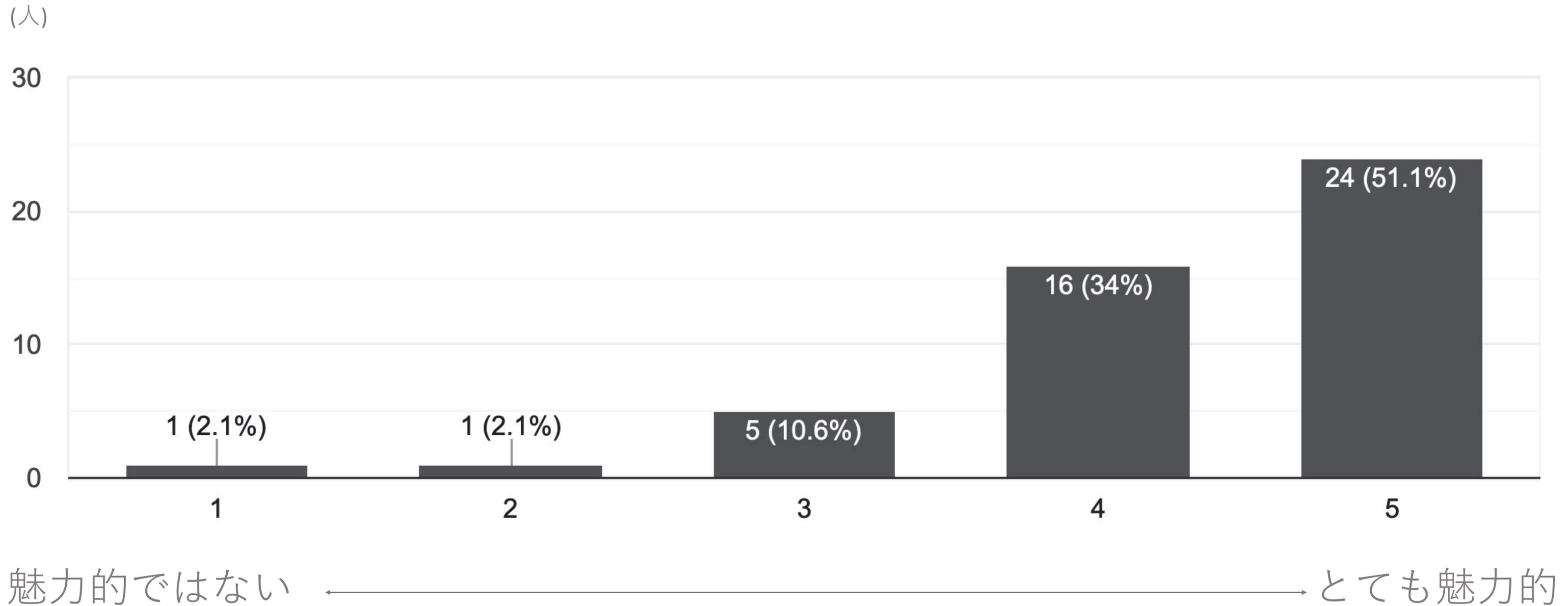
Q: あなたの専門は情報科学と生物学のどちらにより近いと思われますか



※男女比は反映されていません

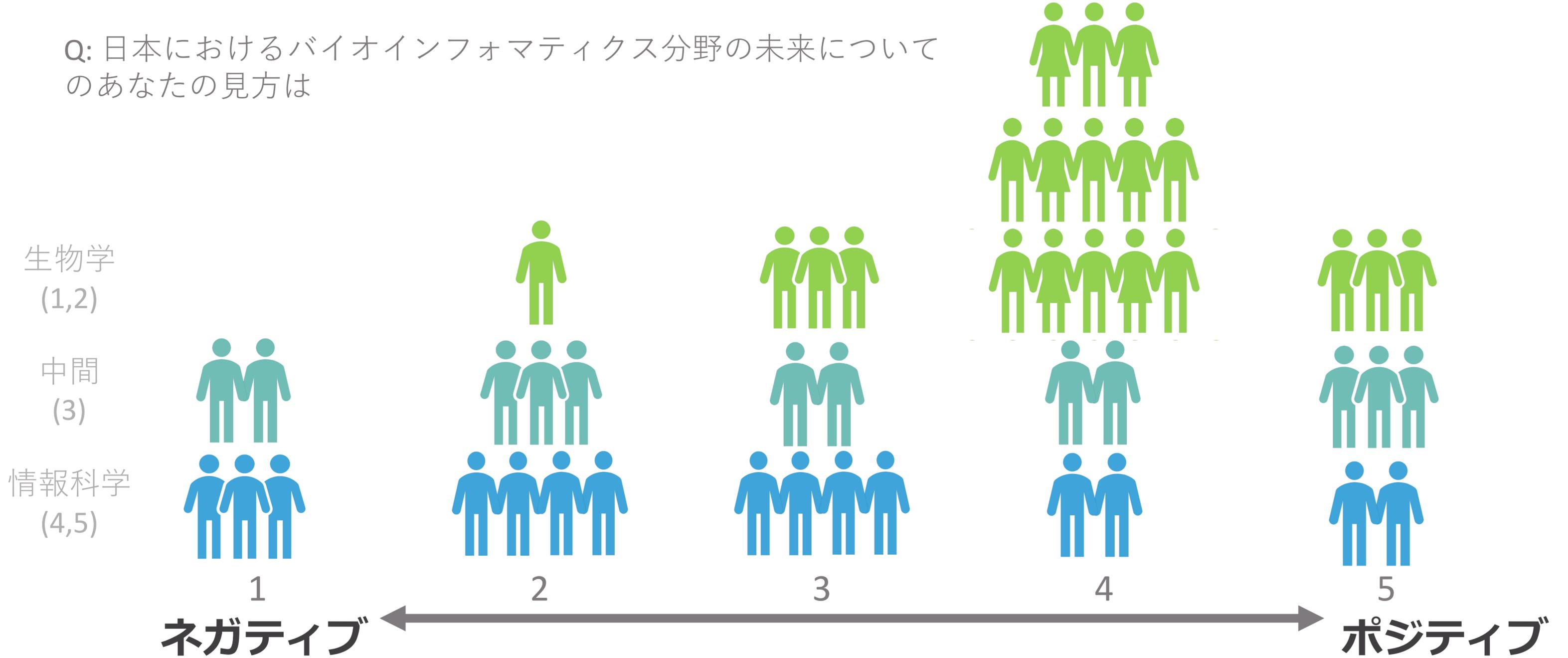
# バイオインフォマティクスの魅力度

Q:あなたにとってバイオインフォマティクスはどのくらい魅力的な研究分野ですか



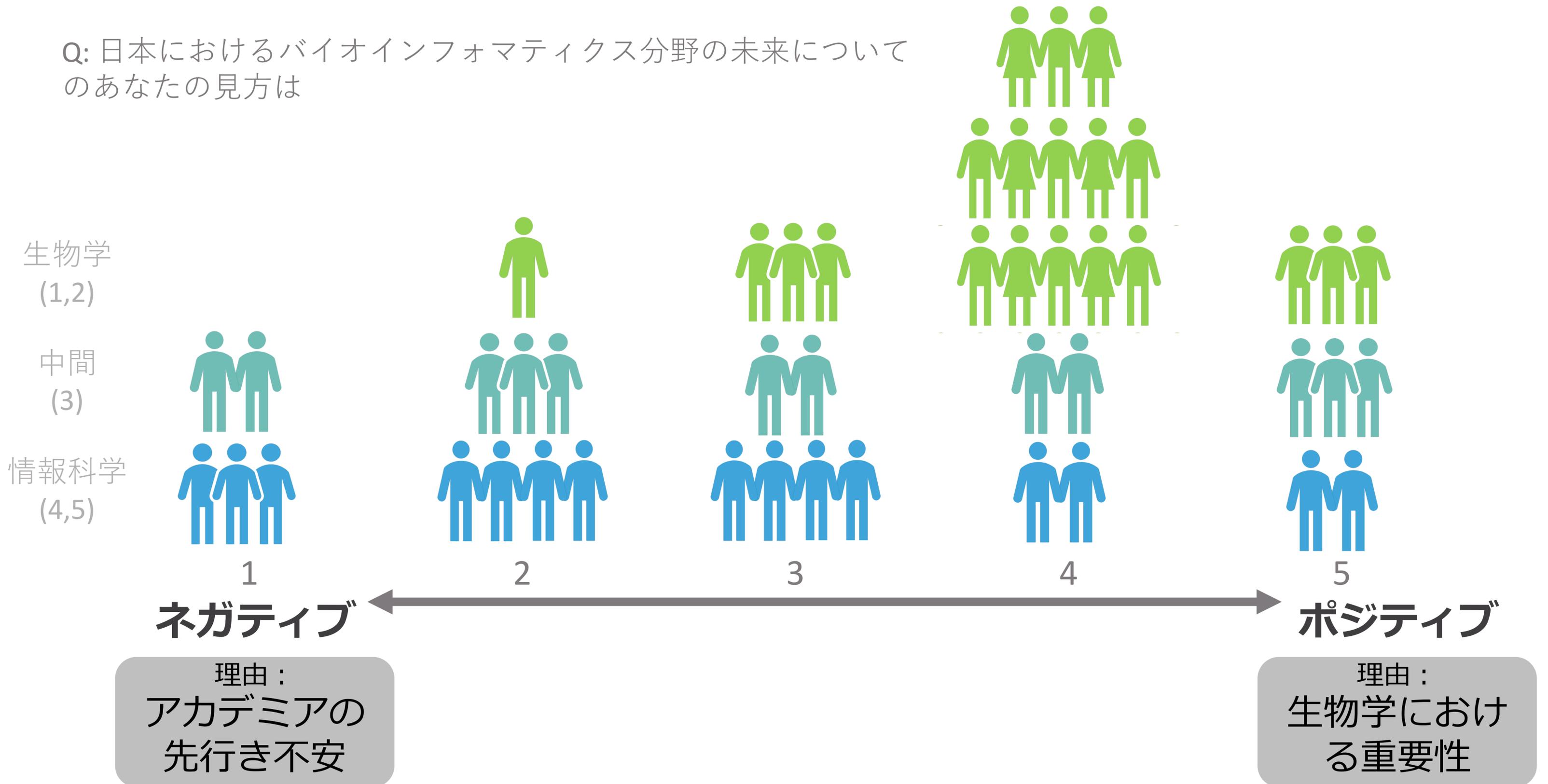
# 日本のバイオインフォマティクスの未来への見方

Q: 日本におけるバイオインフォマティクス分野の未来についてのあなたの見方は



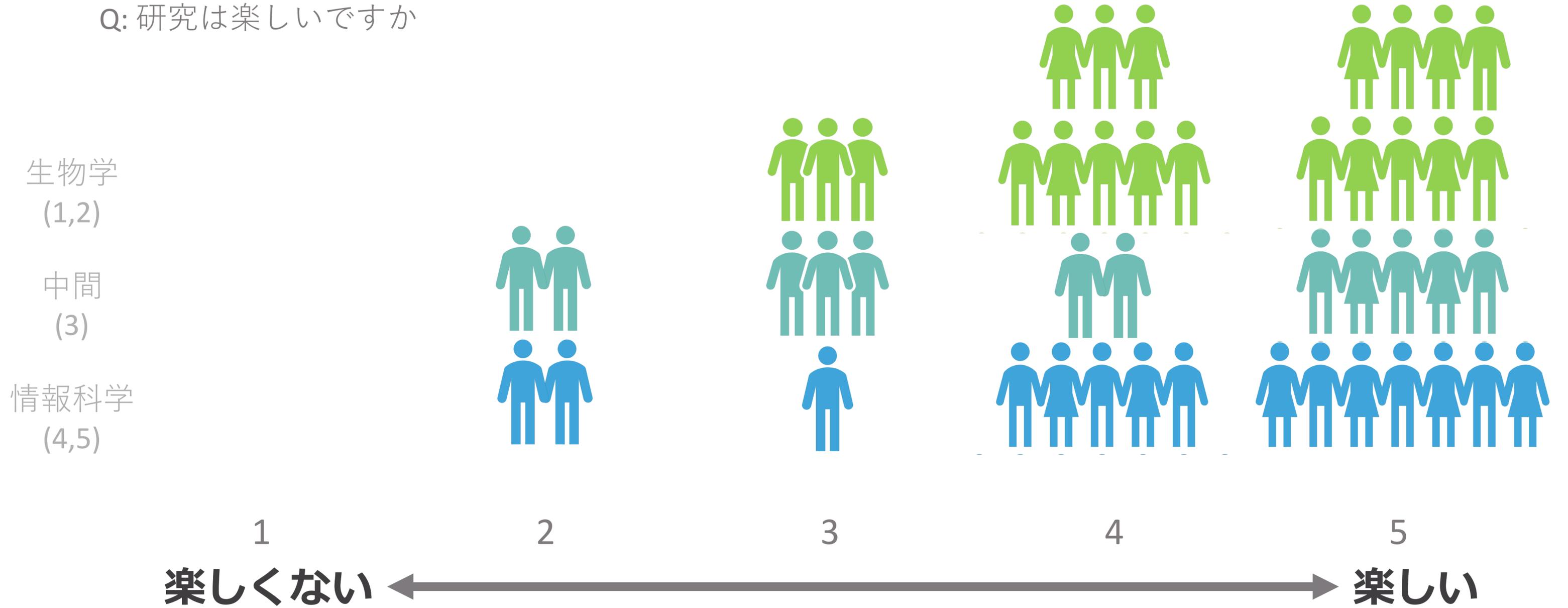
# 日本のバイオインフォマティクスの未来への見方

Q: 日本におけるバイオインフォマティクス分野の未来についてのあなたの見方は

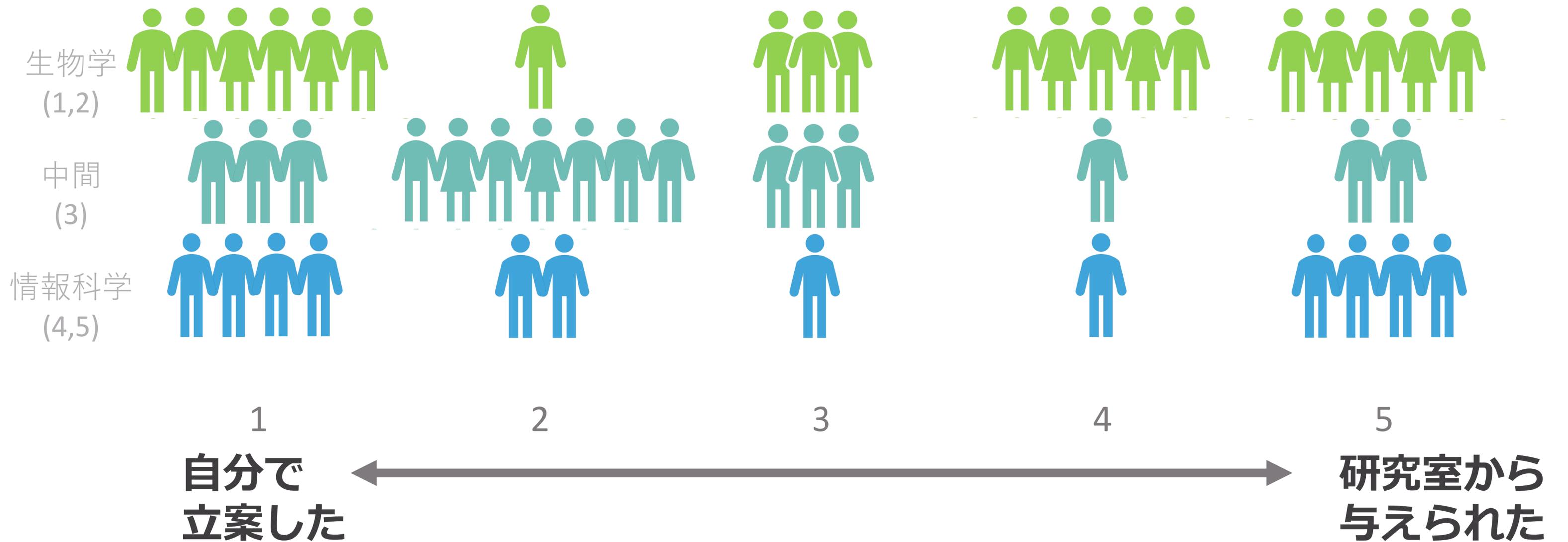


# 研究は楽しいか

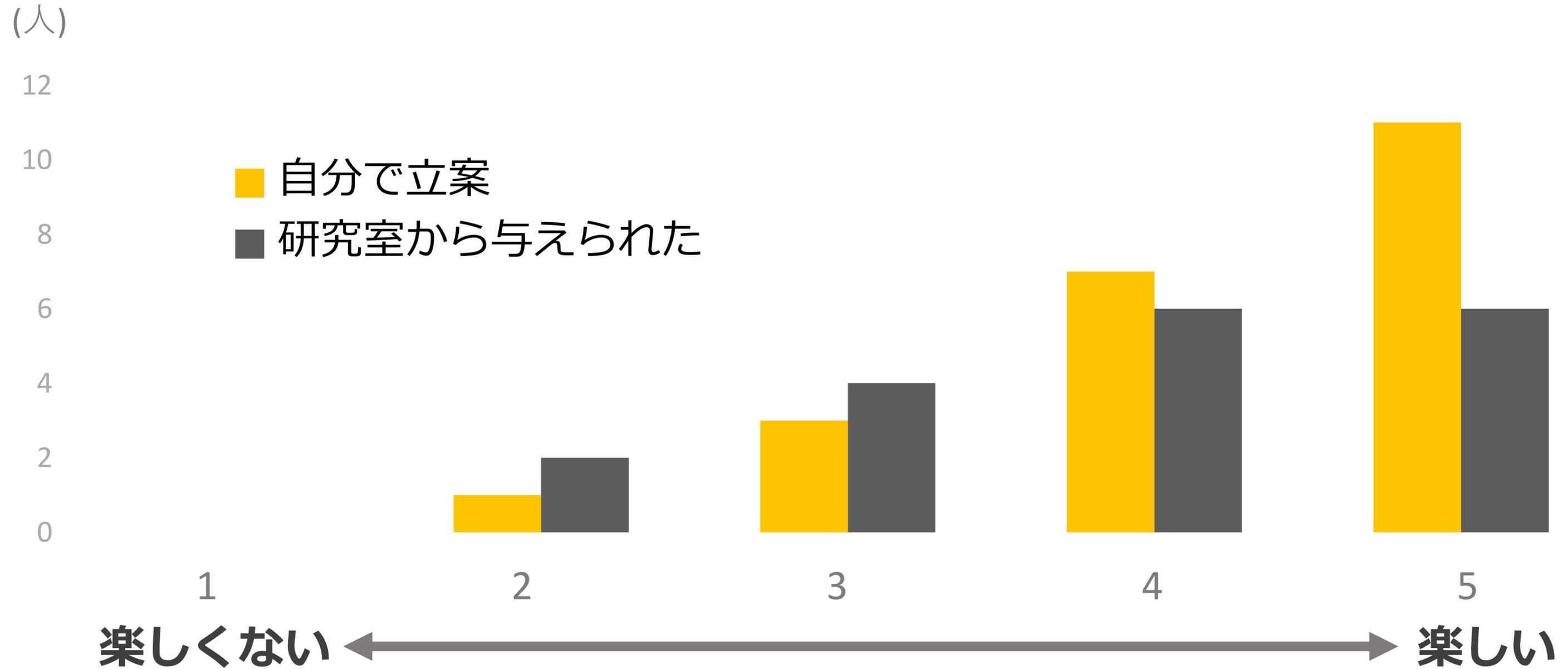
Q: 研究は楽しいですか



# 研究テーマは自分で立案したか

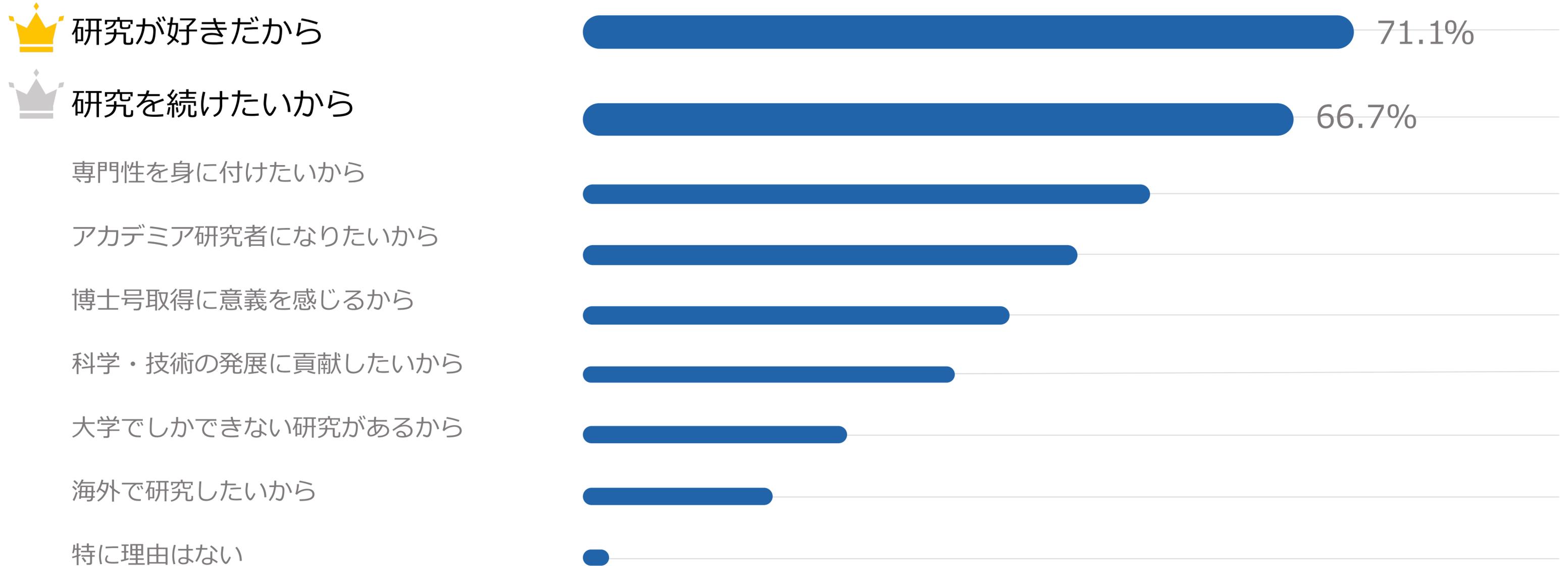


# 研究は楽しいか



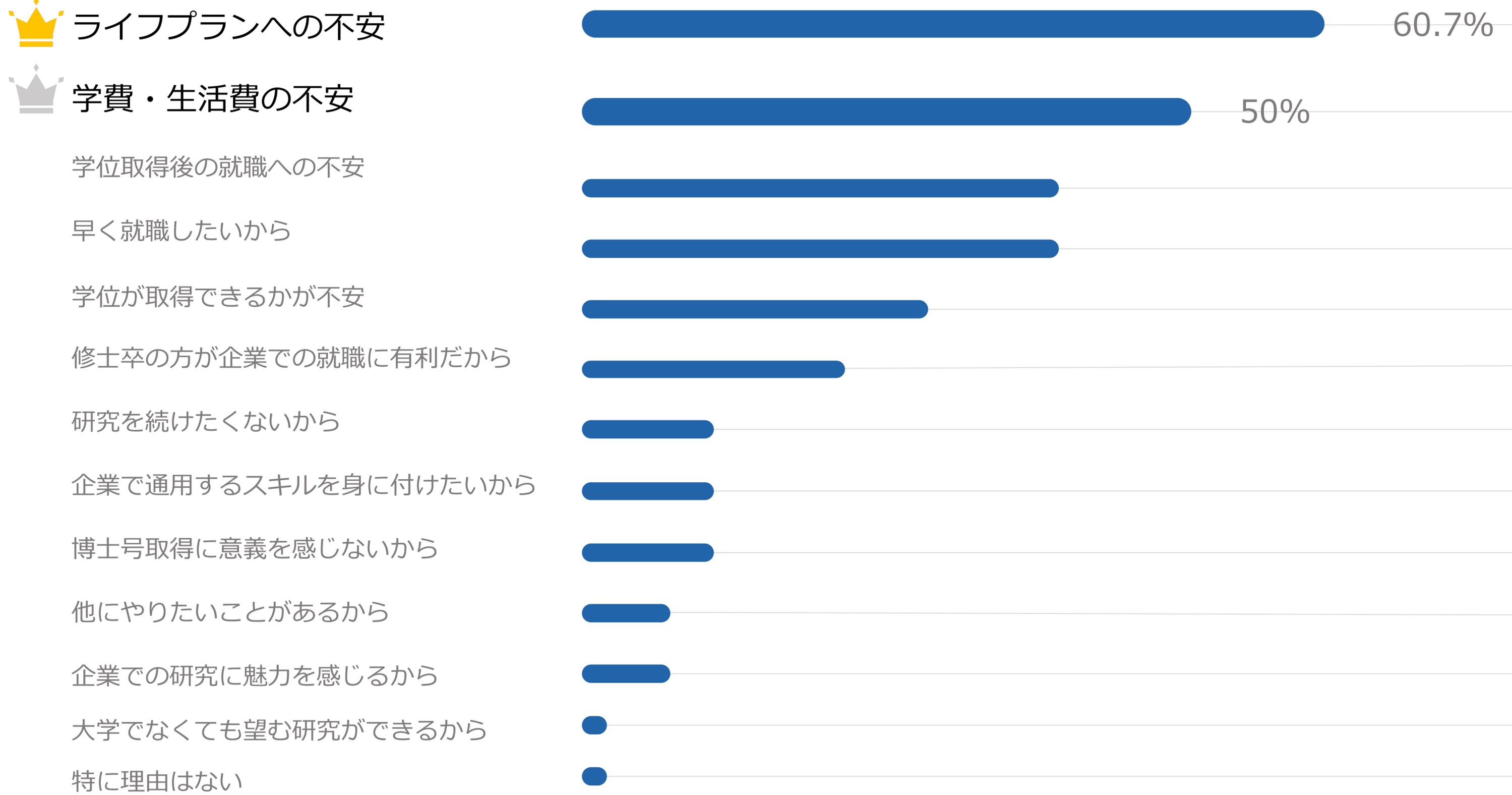
# 博士課程進学のもちベーション

Q. 博士課程に進学する・したとしたら、その理由は(複数回答可)



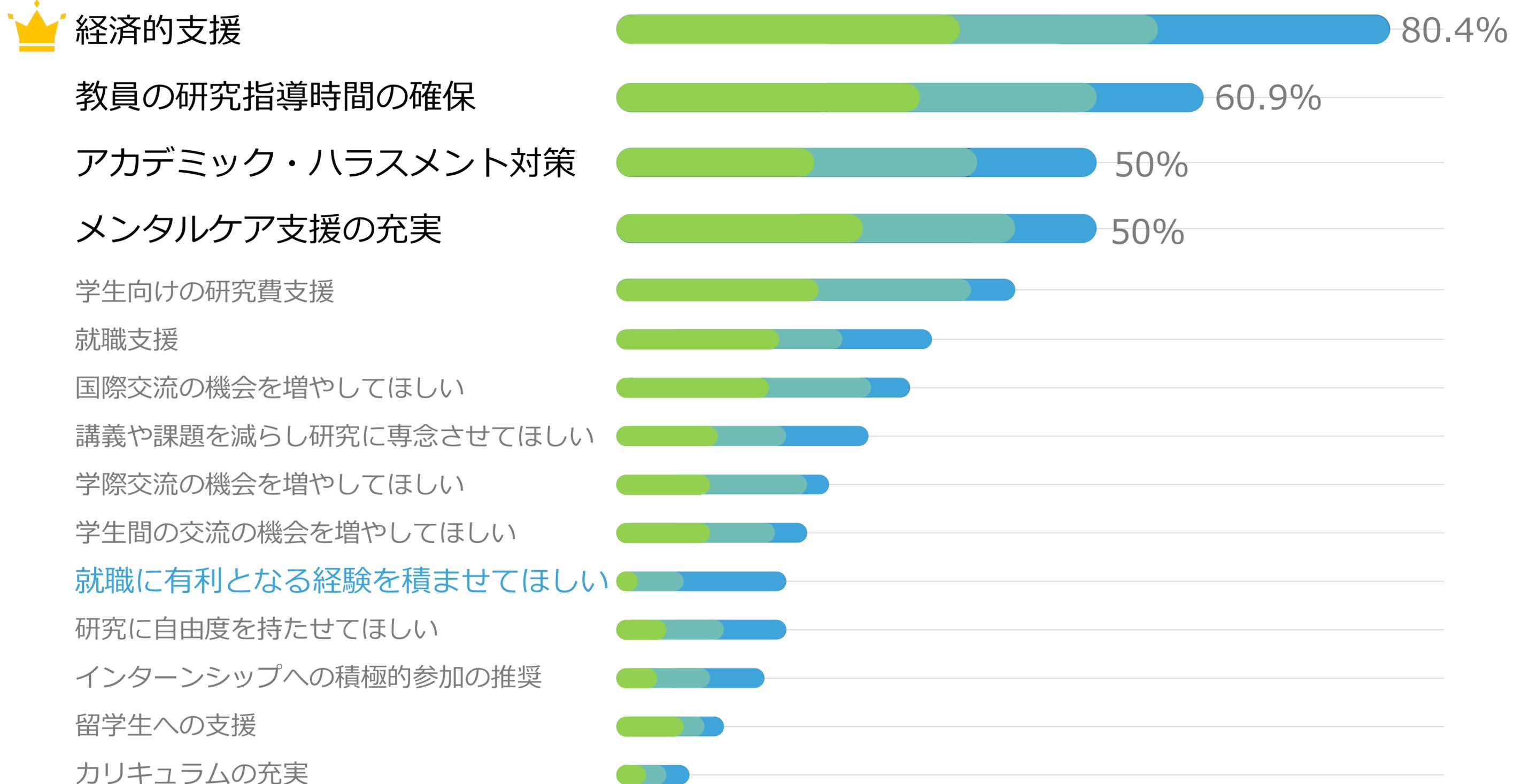
# 博士課程進学でのモチベーション

Q.博士課程に進学しない・しなかったとしたら、その理由は(複数回答可)



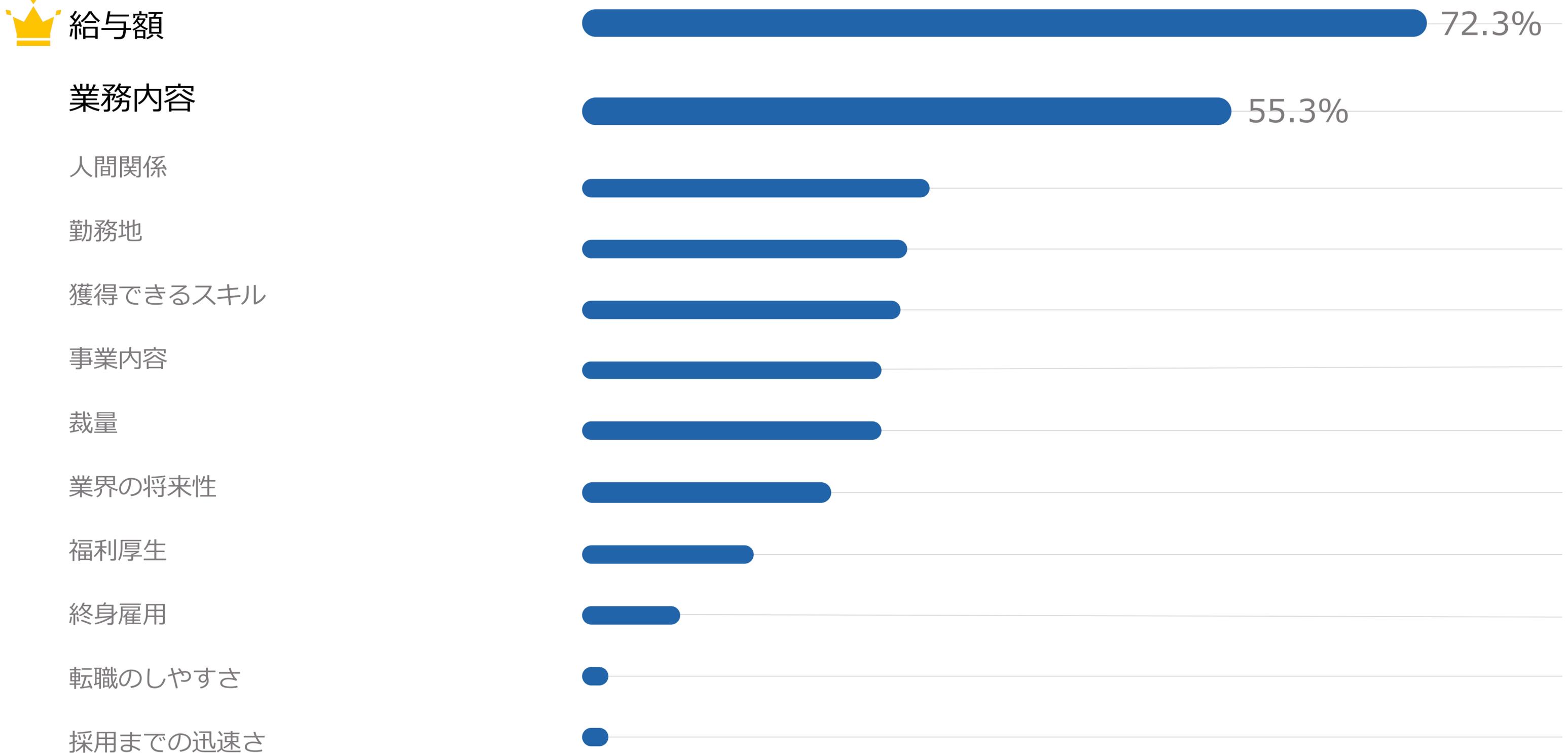
# 大学院教育において改善が望ましい点

Q: 日本の大学院教育において改善が望ましい点は

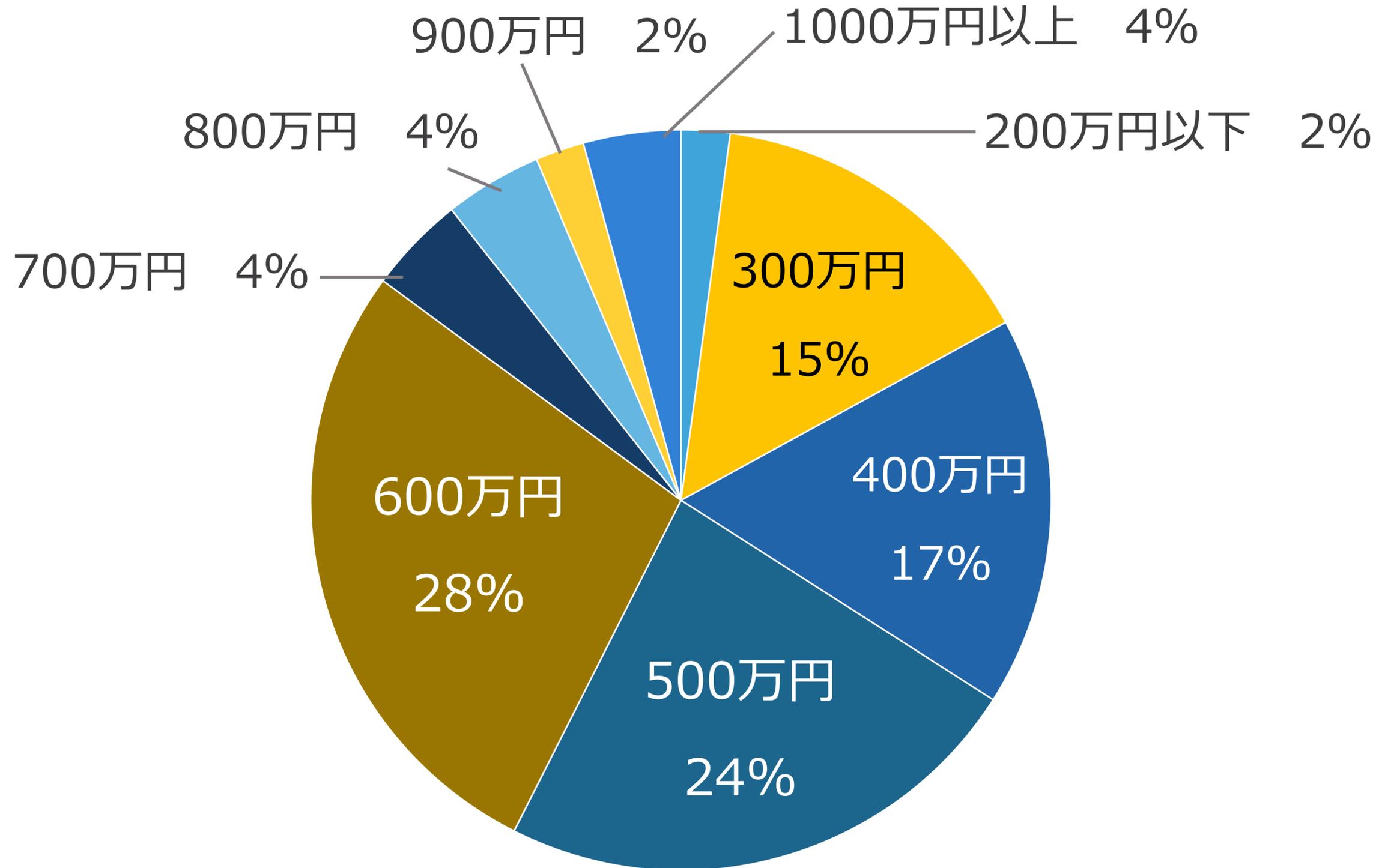


# 就職先選びで重視する点

Q. あなたが就職先を選ぶ際に重要視するのは(3つまで)



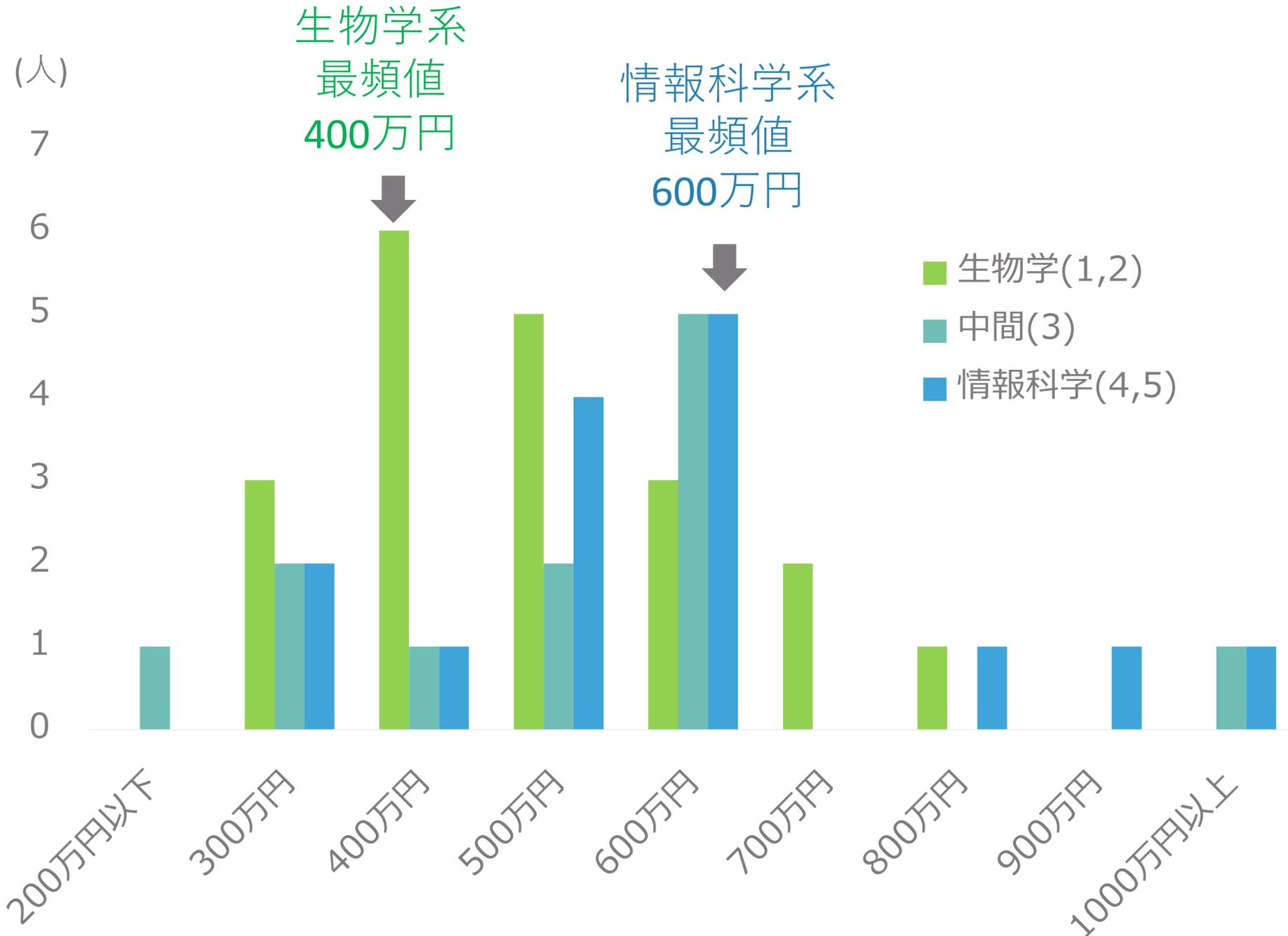
# 想定する博士号取得後の年収の最低ライン



Q. あなたの想定する博士号取得後の年収の最低ラインは

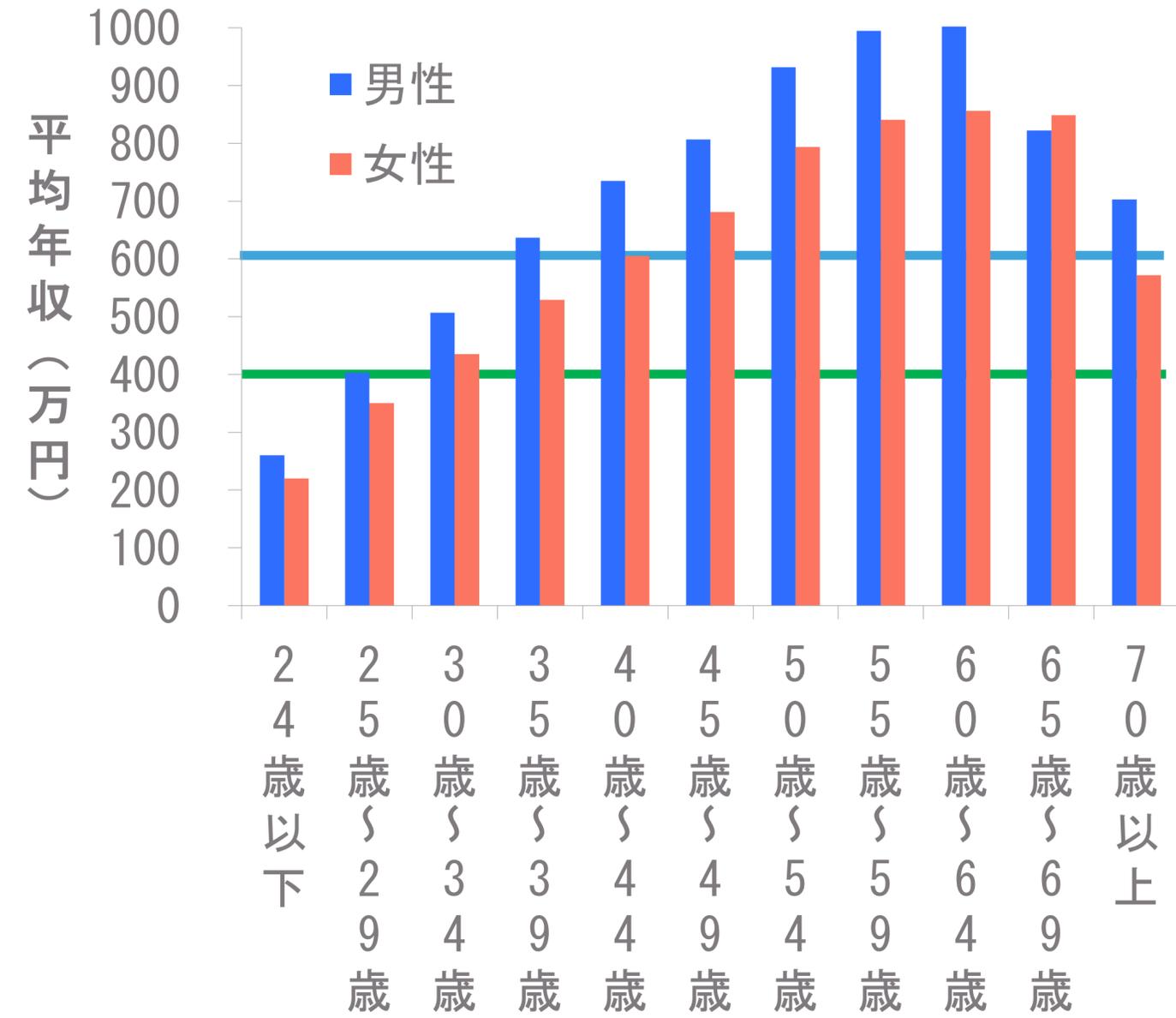
# 想定する博士号取得後の年収の最低ライン

Q. あなたの想定する博士号取得後の年収の最低ラインは



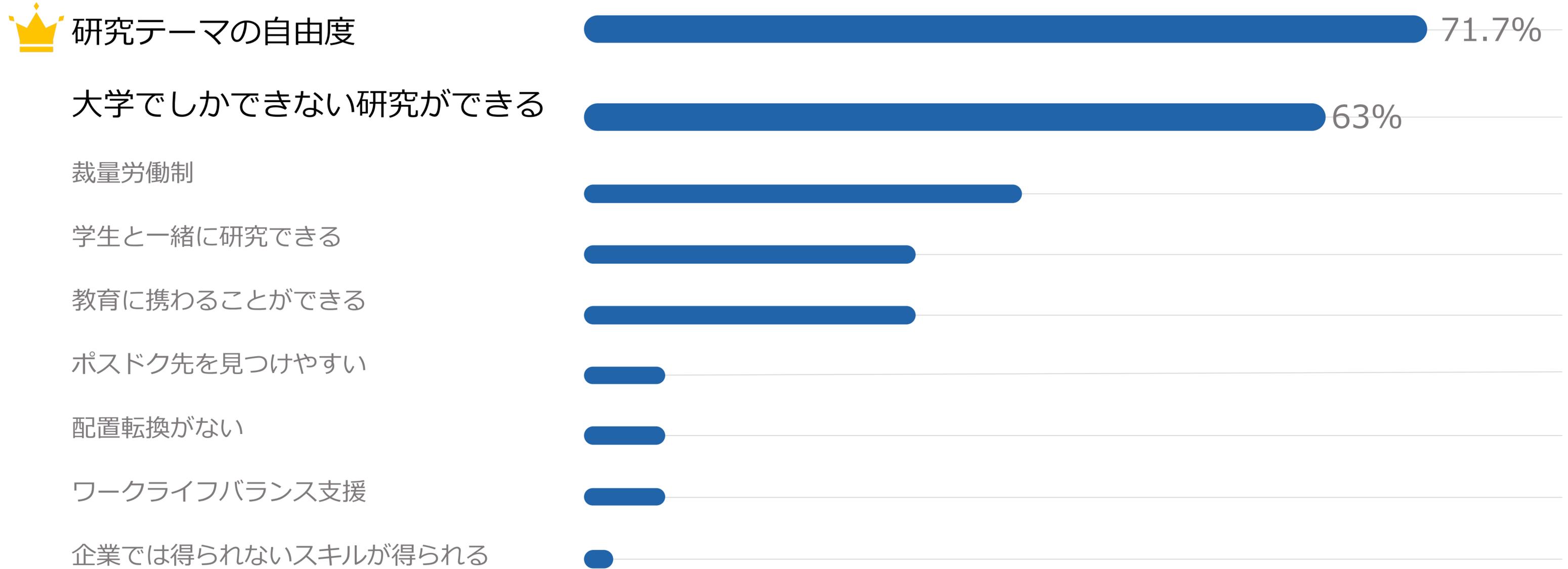
参考資料：博士号取得後の年収の現実

大学・高専等 研究者の平均年収



# アカデミア就職の魅力

Q.アカデミア就職に魅力を感じる点は(複数回答可)



# アカデミアに就職するデメリット

Q: アカデミアに就職するデメリットは



任期付雇用

78.3%



給料が安い

76.1%

上位職のポストが少ない

65.2%

アカデミア職の将来性が不安

50%

研究以外の業務が多い

教員公募の評価基準が不明瞭

ワークライフバランスへの配慮が不十分

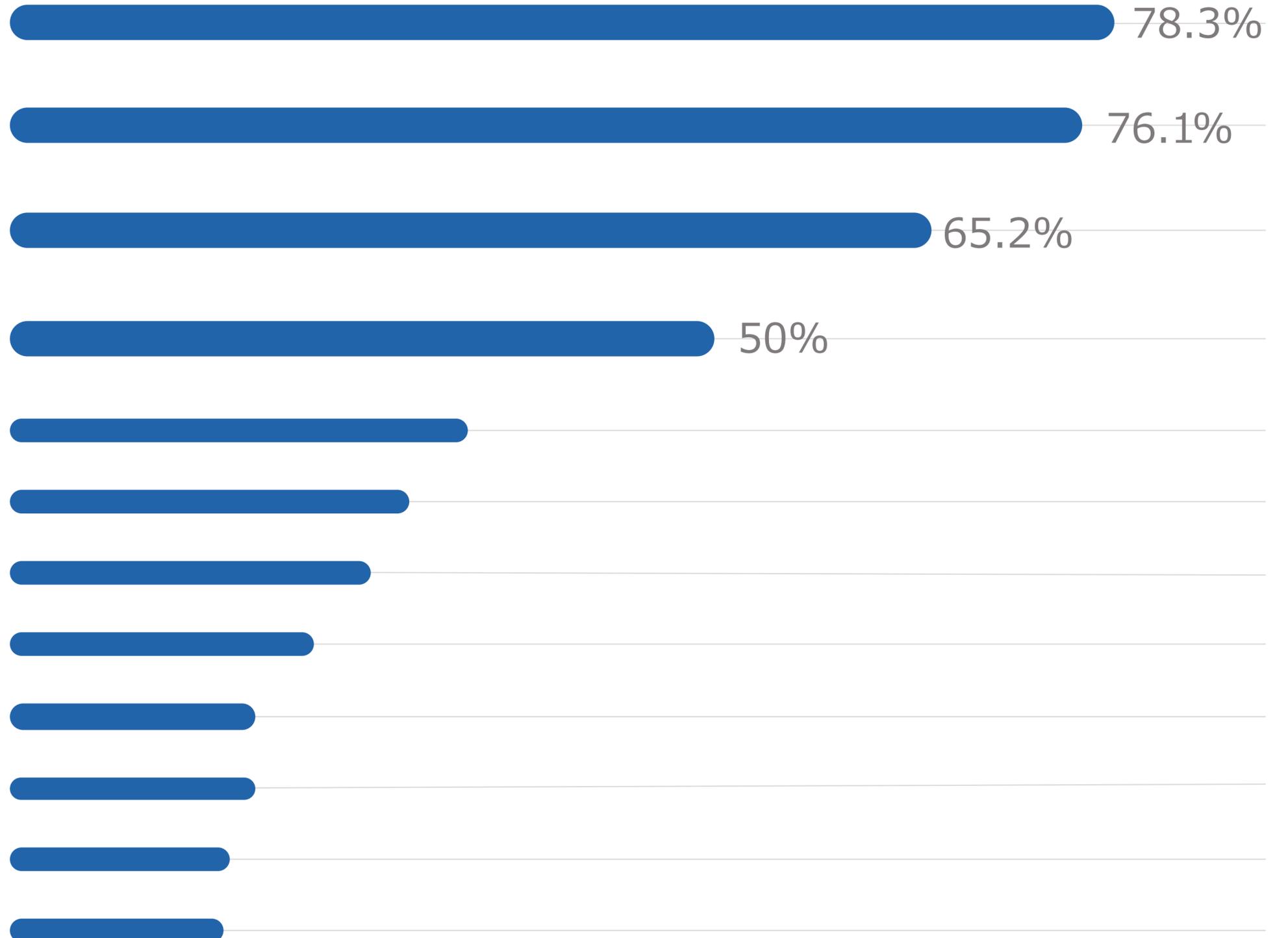
キャリアパスの自由度が低い

研究時間が確保できない

研究費が少ない

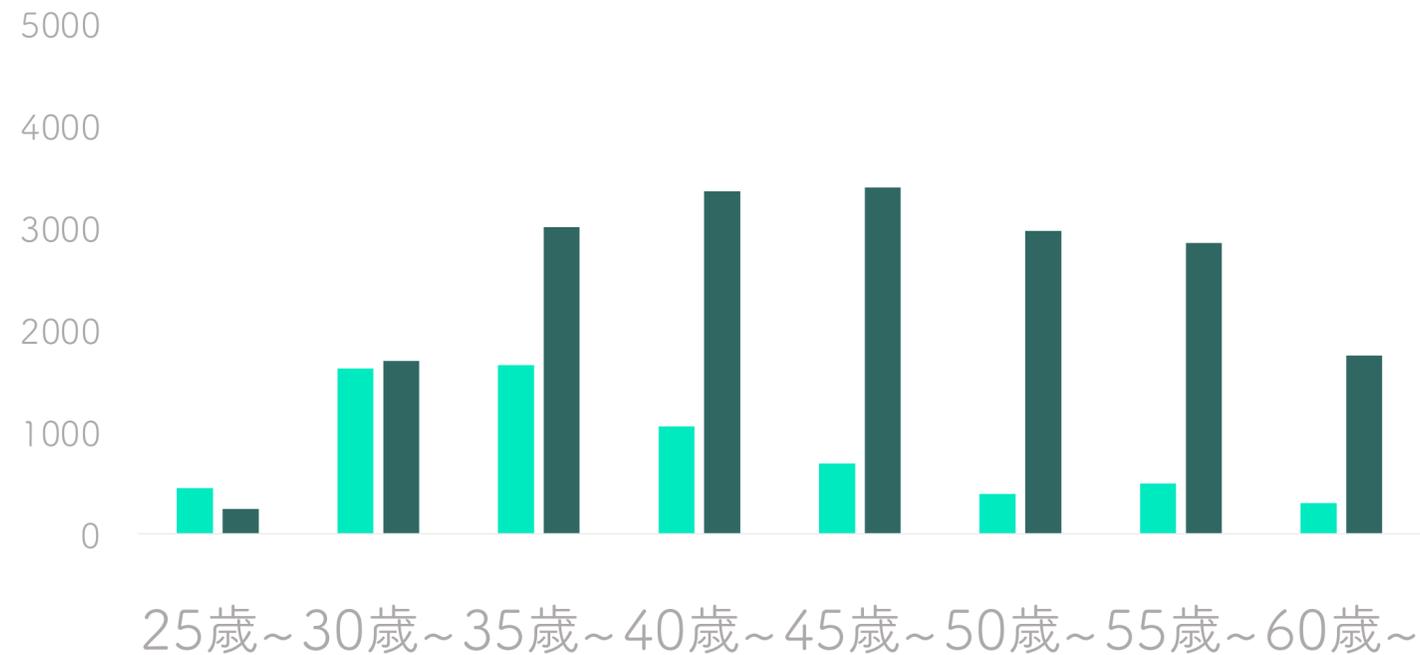
企業への転職で有利となるスキルを得にくい

企業への転職がしにくい

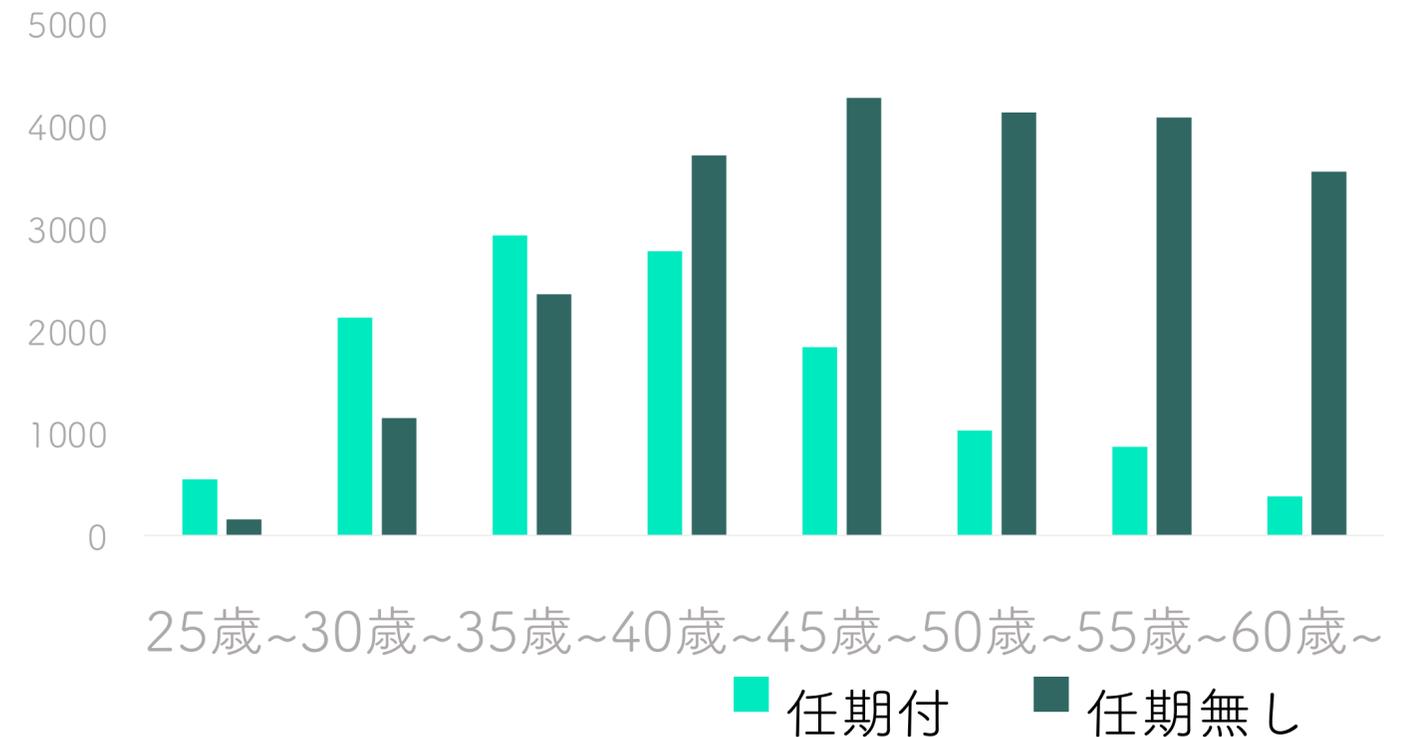


# 参考資料：若手向けポストの任期付職への移行

平成19年(2007年)度



令和元年(2019年)度



同世代の過半数が任期無し職を得るのは30代前半 → 同世代の過半数が任期無し職を得るのは40代前半